



「さっき、苗床部屋の  
フレイドの子が何人か  
コアに戻ったわ」

「やっぱり  
普通のフレイドじゃだめね  
ちよっと壊しただけで  
すぐコアになっちゃう」

「でも再同調すれば  
すぐに元通り」



「全てを忘れ、状況を  
理解できず、また  
苗床になつてくれる」

「その点、貴方達は  
マスターフレイド...  
どんなに激しく犯しても  
コアにならない...」



「でも、問題もあつたわ」

「でも...」

「もう気がついて  
るでしょ」

「この日も子種を  
注いでるのに  
まだ受精して  
ないことに...」

「貴方たちの子宮  
もう排卵してないわよ」

「もう二度と  
受精することはなし」

「良かったわね  
産まなくて  
いいのよ」

彼女が何を言ってるのか  
私達をはじめは  
理解できなかった

確かに度重なる激しい性行為  
数百回を超える出産を  
繰り返したことで…

私たちの体は快楽に溺れ  
生殖機能は  
徐々に壊されていた…

エーテルを食る  
触手は卵巣にまで  
伸び

排卵前の未成熟な卵子すら  
次々と取り出され  
私たちの卵巣は劣化し

出産し続けた結果  
子宮口は緩くなり

たとえ受精したとしても  
流れてしまうだろう…

それでも…

それでも  
希望はあるった…  
受精はできる…

一縷の望みに賭け、  
必死に耐え続けていた  
二人にとって

「もう…産め…  
…ない…?」

「よかったわねえ。  
これで醜い触手を  
産まなくて  
済むんだもの」

「ああ…この場合、本当に  
幸せだったのかしらね…?」

「だって愛する人の子供が  
もう作れなく  
なったんだもの!!」

「レックスの赤ちゃんは  
私が代わりに産んで  
あげるわ!!」

「貴方たちの目の前でねえ…」

「あはっはっは!!」

「あはっはっは!!」

その残酷な宣告は…  
異形を孕み続ける  
地獄からの  
解放であると共に

もう、愛する人の  
子供を孕むことが  
できなくなったという  
事実であり…

——必死に耐えてきた  
二人の心は——

——女性としての  
最後の砦をも  
完全に破壊した——

少女たちの抵抗は終わった――

触手の蠢く洞窟内では今も少女たちの声が鳴り響く

その奥に二人はいた

触手に囲まれ  
全身を白濁に  
染められた彼女の  
胸には

今もコアクリスタルに  
光が灯っている

光は弱弱しく  
彼女たちもほとんど  
反応がない……

壊れた人形の  
ようだった……

触手が再び活動を再会し  
彼女たちの全身を  
犯し始める

力の失った瞳の奥に  
僅かに光が灯る

その表情に  
苦しみはなく

快楽に身を委ね  
喘ぎ声を奏でるその姿は  
どこか幸せそうだった――  
壊れた少女

女性としての機能を失い  
役割を終えた  
子宮には大量の子種が  
今も流し込まれている